

早稲田大学西洋史研究会第 77 回大会（共催：早稲田大学ヨーロッパ文明史研究所）

日時：2021 年 7 月 10 日（土）13：00-18：00

場所：Zoom を用いたオンライン開催

第 1 部：博士後期課程進学者による研究発表

長藤美佑紀（博士後期課程 2 年）「15 世紀帝国都市フランクフルトにおける救貧の「転換」

吉田眞生子（博士後期課程 1 年）「1860-70 年代のフィンランド大公国における「folk」

「ナション」「カンサ」概念：サカリアス・トペーリウスの主張」

山崎皓平（博士後期課程 1 年）「二十世紀ドイツ東方研究の再検討—主要研究者の事例研究を通じて」

第 2 部：合評会 飯田洋介著『グローバル・ヒストリーとしての独仏戦争—ビスマルク外交を海から捉えなおす』（NHK 出版・2021 年）

司会・趣旨説明 森原 隆（早稲田大学）

著者による基調報告 飯田 洋介（駒澤大学）

コメント 小原 淳（早稲田大学）

質疑応答

第 3 部：ヨーロッパ文明史研究所総会

早稲田大学西洋史研究会第 78 回大会（共催：早稲田大学ヨーロッパ文明史研究所）

「革命を問い直す——R・ゲルヴァルト『史上最大の革命』を手がかりに」

日時：2021 年 12 月 18 日（土）13:00～16:00

会場：Zoom を用いたオンライン開催

趣旨説明・司会 湯浅 翔馬（早稲田大学）

コメント 1 井出 匠（福井大学）

コメント 2 山崎 皓平（早稲田大学大学院博士後期課程）

訳者からのレスポンス 小原 淳（早稲田大学）

紀 愛子（早稲田大学他非常勤講師）

前川 陽祐（早稲田大学他非常勤講師）

質疑応答

投稿規定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

- (1) 本誌に発表する論考は、西洋史研究会大会において口頭発表したもの、および委員会が承認したものとしします。
- (2) 論文、研究動向、研究ノートは、完成原稿として 400 字詰原稿用紙 50 枚以内（註・図表を含む）とし、書評は 20 枚以内としします。
- (3) 提出原稿の採否は、当委員会が依頼した 2 名の査読者による審査を経て決定されます。
- (4) 原稿には欧文タイトルを入れて下さい。
- (5) 執筆者の勤務先および職名を書き添えて下さい。
- (6) 図、表などの要領については、委員会に問い合わせして下さい。
- (7) 校正は第二校まで執筆者にお願いしますが、その際、大幅な書き込みや削除はご遠慮下さい。
- (8) 抜刷を希望する場合は、執筆者の自己負担としします。
- (9) 投稿の応募締切は毎年 6 月 30 日、原稿締切は 9 月 30 日厳守としします。
- (10) 本誌に掲載された論考は、早稲田大学リポジトリに登録されます。

会費規定

- 特別会員 : 年会費 ¥ 10,000
一般会員 : 年会費 ¥ 2,000
準会員 : 年会費 ¥ 500

厳正に会費の徴収を行いますので、各位のご協力をお願いいたします。

早稲田大学西洋史研究会

編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

『西洋史論叢』第 43 号をお届けします。今号では論文 3 本、研究ノート 2 本を収録しております。それぞれ味読していただくと幸いです。

さてコロナ禍のもとでの研究会活動も 2 年目を迎え、Zoom を用いた西洋史研究会大会の開催もすでに 3 回を数えました。多くの方々に遠隔からご参加いただけることはオンライン開催の利点であることは明らかですが、会場や懇親会で皆様とお話しできないのはやはり残念と言うよりほかありません。コロナ禍の終息と皆様のご健康を心からお祈りするとともに、今後とも本会の活動にご協力いただきますよう、よろしく願い申し上げます。

(湯浅 翔馬)

早大西洋史公式ウェブサイト : <http://www.waseda.jp/bun-seiyousi/>